第22回ユニセフ協力活動発表会　記録

2025年3月22日(土)14：00～16：10
熊本市現代美術館アートロフト

「アフリカの子どもの日」発表(第一高校　Ｉさん)

今年の「アフリカの子どもの日」はジェノサイドから30年のテーマを基に、コロナ以前の形式に戻したリアルに集えるイベントをすることができた。

５回の実行委員会で色んな話し合いができた。

ネットによる多様な情報の中、リアルな声、積極的なコミュニケーションをすることで、情報一つ一つを本当か嘘かを検証していかなければならないと思った。

地方、地域の生活に寄り添う仕事に就きたいと思っているが、自分の将来について考える時に、「アフリカの子どもの日」はとてもヒントになった。

分科会「ジェノサイド」発表(八代高校　Ｍさん)

ルワンダで何が起こっていたのか！

遠い国で起こったことで他人事と思っていたが、実際学んでいくと、ツチ族、フツ族を教育や職業で差をつけたり、ラジオでプロパガンダを行ったことなどで「ジェノサイド」に繋がったことを知ったこと、そこからまた学びを深めることができて良かったと思う。

この事実を知らないままだと、過去の事実はなかったことになってしまう。自分たちに関係ないと思うことは、またジェノサイドが起こりうることになる。同じ歴史を繰り返すのではないか！と感じた。

国の間に優劣はない。金銭的なことで判断するのではなく、どの国にも良い部分、悪い部分があることを踏まえて、支え合いながら、各国は、互いに付き合っていかなければならないことを思った。

これはユニセフの理念でもあるし、構築していかなければならないと思った。

ユニセフで普段触れないことに関わることができたり、留学生からエピソードを聞くことができ、実りある体験ができた。

分科会「教育・ジェンダー」発表(ルーテル学院高校　Ｓさん)

ジェノサイドにより教育が十分に受けられなかったこと、女性の権利がなかったことなどの過去の事実から、教育改革が行われ、識字率、通学率が目まぐるしく向上した。

私たちは教育を受けることが当たり前と思っているが、世界には安心して学べない子どもたちがいることを知らなければならない。

当たり前とは何か！

世界のどこかでは当たり前ではないことを考え、一人ではちっぽけな力でも、周りに考えを広げることで大きな力となり、それが平和に繋がるのではないかと思った。思ったことを周りに伝えることの大切さを感じた。

分科会「環境・開発」発表(学園大付属高校　J さん)

西原先生に水素エネルギーについて学んだ。

水素エネルギーの技術があってもそれが機能しない社会、それを取り入れる人材がないことが問題となっていることを聞いた。

世界全体が同じ方向を向かなければ、共通の意識がなければならないことを感じた。

身近なコミュニティーからの発信、地域に関心を持つことでボトムアップに繋がること、省エネに関することを、小さなことからやっていくことが大切だと思った。

分科会「文化・生活」発表(第一高校　K さん)

アフリカの文化や生活で、何が興味あるかを皆で話し合い知りたいことを調べる学習をした。

私たちは建築や音楽について関心があり、タンザニアに長い間住んでいらっしゃった木村先生が、そのことについて色んな話をしてくれた。

日本にいると、児童婚、児童労働は問題だ！いけないことだ！と決めつけてしまいがちだ。しかし、そこに流れる歴史や風土、文化についても理解して寄り添っていくことも大切だと思った。

木村先生から絵や布を見せてもらったり、歌詞の意味を聞いて歌ったり、アフリカの文化を楽しむことができた。

留学生の話を聞いて交流することで、視点が広がり、自分の生活、相手の生活をより多く知り、理解することが大切だと思った。

分科会「アフリカ料理」発表(九州学院高校　M さん)

料理を通して国際交流することは何らかの学びになることを感じた。

「2024 ユニセフ講演会・シンポジウム」

「学校生活」発表(ルーテル学院高校　B さん)

このグループの発表で「同調主義」ではなく「パーソナル」な生き方をしたいということを発表した。自分の気持ち、考えを一方的に発信しただけだったが、ある日、バスの中で、「君の発表を聞いたよ。自分はこう考えたよ。」ということを話してくれた。

自分の話に、どう感じてくれどう思ってくれたかを生で聞くことができてとても嬉しかった。発表して良かったと思った。

「家庭生活」発表(千原台高校　S さん)

子どもの虐待、貧困家庭について学んだ。

「子ども家庭庁」が出来たことで、子どもが安心して暮らしていけるよう国の力や皆の力で実現させたい。虐待や貧困がない世界をつくっていきたい。

自分はこのグループに入って、原稿の書き方や、表現の仕方を学んだ。将来システムエンジニアになりたいと思っているが、この経験を活かしていきたい。

「地域社会」発表(ルーテル学院高校　Ｉさん)

今の子どもたちは、地域社会での活動がないからこのテーマを感じることが少ないかもしれない。インターネットや SNS での情報が飛び交っていて、そこでの関わりが多いため、地域社会に関心がない人が多く地域イベントの参加者は少ない。

しかし、地域の未来を考えると、「子どもに優しい社会」になるよう私たちが積極的に動くことが大切だと思う。

「募金活動」発表　(九州学院高校・真和高校)

募金活動は皆さんの善意によって支えられている。

募金を断られるとやる気を失うが、活動をすることで誰かが知ってくれるし、頑張ってと声をかけてくれることで勇気をもらえる。

皆さんの善意がなければ募金は成り立たないので、少しでも多くの人々に声をかけていきたい。(活動を理解してくれる人を増やしたい)

募金をすることで人の温かみを感じたし、自分たちがどんなに恵まれている存在かも感じた。

「日本ユニセフ協会訪問」(ルーテル学院高校　B さん)

1 月下旬に「国際理解」というテーマの研修旅行で日本ユニセフ協会本部を訪問した。

15 人位の生徒で見学したが自分たちの環境とこんなにも違う子どもたちのことを知って皆泣いた。

「7 人の子どもたちと出会う」というコーナーで、この地球のどこかに住んでいる子どもたちが、こんな過酷な状況に住んでいることを知って、イメージできない(想像できない)し信じられないことばかりだった。(毎日 4 時間もかけて水くみに行ったり、5 歳の男の子が親元から連れ去られて少年兵となり自分の村を銃で撃ったことなど)

ここで得た知識や情報を、これから発信していかなければならない、行動していかなければならないと思った。

「高校生平和大使」としてオスロ訪問の報告(九州学院高校 2 年)S さん

ノーベル平和賞の授賞式に出席するため、ノルウェーのオスロを訪問した。

現地の高校で出前授業やディスカッションを行った。現地の高校生は平和についての知識が高いと感じた。

労働組合、赤十字、オスロ国際平和研究所等訪問した。

そこで関心のない人たちへのアプローチは、根拠に基づいた情報を届けることが大切なんだということを学んだ。

被ばく証言イベントでは 10 年先には被爆者の発表が数人に減ってしまっているかも。この証言を次世代に繋ぐことが大切だということがすごく心に残った。

平和活動で、核廃絶に声を上げることは世界共通であり、世界中の人々が、それぞれ世界をより良くする力を持っていることを確信した。

全国で「微力だけど無力ではない」というスローガンを基に核廃絶の署名活動をしている。

熊本でも月 1 回、上通などでやっているので是非参加してほしい。